

六年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

「一日は人生の部品である」学年のはじめにそう皆さんに話をしました。

今日は小学校生活最後の日。皆さんの人生で「小学校時代」が完成する日です。

あなたの今日の六年生としての姿、気持ちや考え方は、これまで1、154日間、何を、どのように、周りの人に接してきたか。自分で積み重ねてきた結果です。

あなたは今、どのような十二歳になりましたか。

声をからして応援し、運動会を成功に導いた皆さん。

生まれて初めてカッターボードに挑戦、気持ちをそろえて大海原へ漕ぎ出してみなさん。

友達が良いプレーができるよう互いを応援し、パスを出し、楽しみ、競い合っていた皆さん。

そして、縄を跳べなかった小さな子たちにやさしく声をかけ、笑顔で励ましていた皆さん。

ほめてもらおうとしてではなく、心から自分たちが楽しみ、年下の子たちを励まそうと行動しているとき。皆さんは頼もしく、素敵でした。輝いて見えました。

私たちの大切な皆さん、今日でサヨナラです。

高洲第三小学校を巣立つ皆さんに最後にお話するのは、「愛情と命」についてです。

静かに後ろをみましょう。ご家族は見つかりましたか。そのまま聞いてください。

ご家族には、なかなか寝付かない小さなあなたを胸に抱いて、立ったまま夜通しあやしていたことがきつとあったでしょう。抱きかかえられるほど小さかったそのあなたが、今日、小学校卒業の日を迎えます。成長したあなたの姿を見て感じるのは、誇らしく、一方で、自分の手を離れていくような寂しさもある複雑な気持ちです。

自分よりも大切な存在ができる。全力で守り育てる存在ができる。それが親になるということです。あなたが褒められれば、自分が褒められたようにうれしく、あなたが悲しそうであれば自分も悲しくなる。それが親の愛情です。

いつかわかる日が来るまで、一生懸命想像してください。

前を向きましょう。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

背中よりもランドセルのほうが大きく、足元もおぼつかなかったお子さんも、今、ご覧のように、たくましささえ感じられるようになりました。

こんにちまで、私共教職員一同、力を合わせて教育にあたって参りましたが、ご期待に応えきれずご心配をおかけしたこともあったと存じます。ですが、どうぞ、今日の彼らの成長した姿に免じてご容赦ください。

さて、「みなさん、命とは何でしょう」

「命とは人間が持っている時間のことです」

そう答えていたのは、聖路加国際病院の日野原重明先生です。日野原先生は、105歳で亡くなるまで、全国あちこちに出かけ、子供たちに命の大切さを教えてくださった方です。今日は、日野原先生の言葉をお借りして、話します。

皆さんには時間があります。家族からもらった命があるのです。

どこへ行き、何をして誰と出会い、どのような人生にするか、十二歳のあなたには、自由に使える時間が、命があります。

初めての船出に挑戦し大海原に漕ぎ出したときのように、時間を、命を様々なことへの挑戦に使うこと。

友達のために応援して、パスを出したように、長縄を跳べずにいた小さい子に声をかけたように、その時間を、命を誰かのためにも使うこと。

命ある皆さん。

自分は家族から愛されているのだということを思い描き
自分の時間を様々なことへの挑戦や、誰かのためにも使うこと。

そのような時間を積み重ねて人生を楽しみ、あなたのなれる、最高の十三歳に、二十歳に、三十歳、四十歳そしてその先も、思う存分生きて「あなたのなれる最高の人」を目指してほしい。

周りの大人は心からそう願っています。

むすびに、卒業する皆さんと保護者の皆様の未来が、笑顔に満ちたものとなることを祈念して、式辞といたします。

令和四年 三月十八日 千葉市立高洲第三小学校 校長